



2022年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年8月12日

上場会社名 福留八ム株式会社

上場取引所 東

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福原 治彦

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 経理部長 (氏名) 深町 誠

TEL 082-278-6161

四半期報告書提出予定日 2021年8月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第1四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	6,042		95		72		25	
2021年3月期第1四半期	6,260	0.2	131		113		119	

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 142百万円 (%) 2021年3月期第1四半期 97百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	7.69	
2021年3月期第1四半期	35.82	

(注) 当第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、上記の連結経営成績は当該会計基準を適用した後の金額となっており、売上高については対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	16,024	4,205	26.2
2021年3月期	15,853	4,348	27.4

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 4,204百万円 2021年3月期 4,347百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		0.00	0.00
2022年3月期					
2022年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	12,550		45		65		70		20.98
通期	25,500		100		140		100		29.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準を適用した後の金額となっており、売上高については対前期及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期1Q	3,400,000 株	2021年3月期	3,400,000 株
期末自己株式数	2022年3月期1Q	62,986 株	2021年3月期	62,986 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期1Q	3,337,014 株	2021年3月期1Q	3,337,068 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、前第1四半期連結累計期間と収益の会計処理が異なることから、以下の経営成績に関する説明の売上高については、増減額及び前年同期比(%)を記載せずに説明しております。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令など、経済活動に制限がかかる状況が続いており、ワクチン接種の広がりとともに経済活動の再開に希望があるものの、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大にともなう消費マインドの低下や先行きへの不安からくる消費者の低価格・節約志向は厳しさを増し、競合他社との価格競争の激化や一部原材料価格の上昇、人手不足等による労働コストの上昇などの影響もあり、依然として厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、今期を2年目とした「中期経営計画2021年3月期-2023年3月期」において、「消費者ニーズにあった新たな商品開発と販売戦略の構築と実行」をテーマとして「商品開発の強化」、「販売戦略の構築と実行」、「新規市場へのチャレンジ」の三点に取り組んでおります。新型コロナウイルス感染症拡大のなか、消費者の購買行動は多様化し、新たな需要に対応するため、新商品の開発や既存商品のブラッシュアップと拡販に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、60億42百万円(前年同四半期は62億60百万円)となりました。利益につきましては、営業損失は95百万円(前年同四半期は営業損失1億31百万円)、経常損失は72百万円(前年同四半期は経常損失1億13百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は25百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億19百万円)となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第1四半期連結累計期間の売上高は1億42百万円減少しております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

加工食品事業

加工食品事業におきましては、既存商品をブラッシュアップした環境にやさしいエコトレイ使用の「野菜といっしょにシリーズ」の「うす切りパストラミハム」や包材を変更した「あらびきロングポークウインナー」、昨年販売した「あらびきKING」の新シリーズ「あらびきKING レモン&パセリ」、「肉厚ハンバーグ」シリーズ等の販売は堅調に推移いたしましたが、昨年のコロナ需要の反動で量販店向けウインナー群等の販売の減少や収益認識会計基準の適用により、売上高は減少いたしました。利益面につきましても、生産性の改善やコスト削減に取り組んだものの、売上高の減少にともない利益も減少いたしました。

その結果、売上高は26億64百万円(前年同四半期は29億18百万円)、セグメント利益(営業利益)は90百万円(前年同四半期比11.1%減)となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第1四半期連結累計期間の売上高は68百万円減少しております。

食肉事業

食肉事業につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により外食需要は依然として厳しいなか、国産豚肉の「八女もち豚」や輸入豚肉の「大麦仕上三元豚」を中心としたブランド提案を強化してまいりました。売上高につきましては、国産牛肉は出荷頭数の減少により高値で推移し、売上高は増加したものの、国産豚肉は、巣ごもり需要は依然あるものの動きは鈍く売上高は減少いたしました。輸入牛肉、輸入豚肉は堅調に推移し、チルドカナダビーフやフローズンUSビーフ等が売上を大きく伸ばし、食肉全体の売上高は増加いたしました。利益面につきましては、採算重視の販売に努めたことや仕入の見直し、在庫の適正管理による余剰在庫の削減、コスト削減努力により前年同期を上回りました。

その結果、売上高は33億78百万円(前年同四半期は33億42百万円)、セグメント損失(営業損失)は27百万円(前年同四半期はセグメント損失(営業損失)54百万円)となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第1四半期連結累計期間の売上高は73百万円減少しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億71百万円増加の160億24百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ3億99百万円増加の66億89百万円となりました。主な要因は、現金及び預金1億66百万円、受取手形及び売掛金55百万円、商品及び製品1億20百万円の増加によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ2億27百万円減少の93億35百万円となりました。主な要因は、投資有価証券1億66百万円及び土地66百万円の減少によるものであります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ3億14百万円増加の118億18百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ4億76百万円増加の74億85百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金3億51百万円及びその他2億40百万円の増加と賞与引当金79百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ1億62百万円減少の43億33百万円となりました。主な要因は、長期借入金63百万円及びその他63百万円の減少によるものであります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億42百万円減少の42億5百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金1億21百万円の減少と利益剰余金25百万円の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期(累計)及び通期の業績予想につきましては、2021年5月14日に公表いたしました業績予想の変更はしておりません。

今後、修正が必要となる変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,635	2,801
受取手形及び売掛金	2,443	2,498
商品及び製品	932	1,052
仕掛品	45	56
原材料及び貯蔵品	203	233
その他	30	46
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	6,290	6,689
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,792	2,782
機械装置及び運搬具（純額）	884	916
土地	3,003	2,937
リース資産（純額）	157	145
建設仮勘定	11	11
その他	50	51
有形固定資産合計	6,900	6,845
無形固定資産	142	137
投資その他の資産		
投資有価証券	2,305	2,139
その他	365	365
貸倒引当金	△152	△151
投資その他の資産合計	2,519	2,352
固定資産合計	9,563	9,335
資産合計	15,853	16,024

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,074	2,426
短期借入金	4,094	4,079
未払法人税等	41	20
賞与引当金	159	80
その他	638	879
流動負債合計	7,008	7,485
固定負債		
長期借入金	2,033	1,969
役員退職慰労引当金	324	328
退職給付に係る負債	1,614	1,575
その他	524	460
固定負債合計	4,495	4,333
負債合計	11,504	11,818
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	△538	△564
自己株式	△80	△80
株主資本合計	3,575	3,550
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	788	667
退職給付に係る調整累計額	△16	△12
その他の包括利益累計額合計	772	654
非支配株主持分	0	0
純資産合計	4,348	4,205
負債純資産合計	15,853	16,024

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)
売上高	6,260	6,042
売上原価	5,182	5,087
売上総利益	1,078	954
販売費及び一般管理費	1,209	1,049
営業損失(△)	△131	△95
営業外収益		
受取利息及び配当金	22	23
不動産賃貸料	14	13
その他	10	9
営業外収益合計	46	46
営業外費用		
支払利息	16	16
不動産賃貸費用	7	6
その他	4	0
営業外費用合計	28	24
経常損失(△)	△113	△72
特別利益		
固定資産売却益	-	54
特別利益合計	-	54
税金等調整前四半期純損失(△)	△113	△18
法人税、住民税及び事業税	6	7
法人税等合計	6	7
四半期純損失(△)	△119	△25
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△119	△25

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純損失(△)	△119	△25
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	211	△121
退職給付に係る調整額	5	3
その他の包括利益合計	216	△117
四半期包括利益	97	△142
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	97	△142
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、従来、顧客に支払われる対価の一部を販売費及び一般管理費に計上しておりましたが、これら顧客に支払われる対価は売上高から控除して表示しております。また、有償支給取引については、従来は支給先から受け取る対価を収益として認識しておりましたが、当該収益を認識しない方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1億42百万円減少し、売上原価は28百万円、販売費及び一般管理費は1億13百万円それぞれ減少しましたが、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

2. 時価の算定に関する会計基準の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,918	3,342	6,260
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	2,918	3,342	6,260
セグメント利益又は損失(△)	101	△54	47

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	47
全社費用(注)	△179
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△131

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,664	3,378	6,042
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	2,664	3,378	6,042
セグメント利益又は損失(△)	90	△27	62

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	62
全社費用(注)	△157
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△95

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの売上高の算定方法を同様に變更しております。利益又は損失については變更ありません。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の「加工食品事業」の売上高は68百万円減少し、「食肉事業」の売上高は73百万円減少しております。